

Appendix

Our Vision as Urban Planners

1. 都市プランナーズビジョン2024 解題
中西正彦 (JSURP/横浜市立大学)
2. 都市プランナーから寄せられた「マイビジョン」





1. 都市プランナーズビジョン2024 解題

中西正彦（JSURPフォーラム部会、横浜市立大学）

■はじめに

フォーラム部会では、2年以上にわたってこの「都市プランナーズビジョン2024（以下、PV）」の検討を行ってきた。その過程では多くの方から様々な論点と意見をいただき、私にとっても部会の一員として改めて様々考える貴重な機会と経験であった。PV中では端的に示されているいくつかの論点について、読者の理解の一助となることを期待しつつも、自分の後学のため、考えたことの一部を個人的な解題として示しておきたい。

■都市をめぐる状況の変化－多様化と不確実性

PVはJSURP 30周年を機としたこともあり、1990年代前半からの約30年間の時代変化を主な背景として記述している。しかしそれ以前の30年、1960～80年代にも目を向けてみると、高度成長期の只中からバブル経済の崩壊まで、一時的な後退はあっても、人口の急増、経済の成長・拡大、各種技術の発達、社会システムの高度化などが進んできた時期であったことがわかる。今日までの30年とそれに先立つ30年とでは、社会の状況・推移が対照的とすら言える。

Review of subject 18



先立つ30年間に都市を巡る状況も劇的に変化した。脆弱・貧弱な都市基盤改善の遅れ、スプロールによる劣悪な市街地の拡大、交通戦争とも称された大渋滞・事故の多発、工業化や過密化による公害・居住環境の悪化など、都市問題の深刻化は著しかった。その対応に追われる一方で、1968年の新都市計画法や各種開発・建築関連法や関連事業の整備と実施など、都市に関する社会システム・法制度の整備が旺盛に進められた。また、市民自らによる都市・市街地の環境改善活動として「まちづくり」が勃興してきたのも、都市問題への対応の必要性と同時に、市民社会の発展があったと見ることができる。すなわちこの時期に、今日の基盤となる社会システムがおおよそ形成されたのである。そして、バブル経済が象徴的であるように、1990年前後に経済的にもある種のピークを迎えた。

都市計画・まちづくりに携わる者にとって、必死の努力が必要であった一方で、基盤整備や高度利用の促進、住環境改善など、目標像に迷いがなく、社会的に進むべき道が共有されていた時期であったとも言えよう。

しかしそれ以降、この30年の社会変化は方向性から大きく変質してきている。PV中でも「経済の低迷と災害の多発、地域社会の弱体化」「多様な主体が参加する都市計画・まちづくりへの変化」とまとめて示したが、「多様化」と「不確実性の増大」をキーワードとして捉えることができる。その結果、右肩上がりの先立つ30年に整備された都市空間や社会システムでは、新たな状況や課題に対応できなくなってきた。そして、今後も多様化は一層進むであろうし、技術発展などを背景として人々の生活や活動はますます変化し、不確実性も増していくだろう。



一方、グローバル化や地球規模の環境問題からの都市・市民社会への要請はさらに強くなると思われる。日本の急激な人口減少や超高齢化も避け得ない。おのずと新たな取り組みや方向性の導出に振り向けられる社会的な余力は減っていく。都市計画・まちづくりに携わる者にとって、目標像を持ち共有することと、その確たる実現の方法論と手段を持つことが、一層難しい時代になっていくと考えざるを得ない。

■今、なぜプランニングが必要か

このような状況認識からは、都市・まちに対する「プランニング」（将来像・目標像を定めて共有し、その実現方法を立案し実行する）という行為の必要性に疑問が生じる。将来像を確固として定めるのではなく、その時その場の必要性に応じて課題解決に取り組み、その蓄積によってたどり着く先があるべき未来であるという考え方は、多様化と不確定性への対応として合理的な面があり、具体的に物事を動かす力ともなる。タクティカル・アーバニズムもそこから生まれてきた思想・取り組みと言える。

しかしながら、そうであってもプランニングは必要であるという認識と姿勢が、PVの根底にはある。個別的で機動的な取り組みの重要性が増してきたことは間違いないが、それによってプランニングという行為の本質的意義が失われたわけではないからである。また、個別最適の積み重ねは全体最適を保証しない（合成の誤謬）からである。



プランニングの本質的意義とは何か。まず、都市やまちをつくるにあたって、リソース（人、資材、金銭などを問わず、あらゆる面で取り組みに投下できる社会的な資源）は有限であり、確実な実現にはリソースの配分をどこかで調整しなくてはならない。また、持続性などの観点から、適切な都市や地域の構造をつくり改善し続けなくてはならず、人口減少時代にその必要性はむしろ増しているが、そのためにもやはり全体を見渡す視点と調整の取り組みが欠かせない。地球規模の環境問題からの都市への要請も理由の一つである。都市環境もリソースと捉え、都市全体での限定や適切な配分を行わなくてはならない。

これらの調整は市場原理に委ねるべきという考え方も根強い。価値観の多様化に対しては、意図的な調整ではなく市場原理による動的な調整こそ適しているという考え方も合理性はある。しかし市場原理は取り組みの積み重ねから成功を導くことが本質であり、失敗はおのずと生じる（むしろ欠かせない）一方で、都市やまちの空間は不可逆性が高く、失敗からの即時の回復が難しいため、トライアルアンドエラーがなじみにくい。失敗の影響はいわゆる社会的弱者が被りやすいことにも注意が必要である。

また、本来的で適切なプランニングは実現性や効率性を上げる。たとえば目指すべき姿を明確にすることが、実現手段の説明力を高め、合意形成にも資する。様々な種別も特性もあるいくつかの実現手段がある中で、目標を踏まえて適切な方法を選択し手順を考えて実行することは、どのような局面でも効率性を上げるが、これはまさにプランニングという行為に他ならない。

Review of subject 21



TOKYO/Aoyama

これらを考え合わせると、時代の変化によって見えにくくなってはいるが、都市・まちのプランニングの必要性はむしろ増しているとも考えられる。したがって、市場原理は利用しつつも、全体的・総合的な視点を持って適宜確認・調整するステップが、社会的になくってはならないのである。

ただし、旧来のプランニング行為そのままが良いと主張しているわけではない。前項で述べたような時代の変化に、かつての技術や経験が適応できなくなってきたことは事実である。プランニングの本質的意義を取り戻すためにも、その具体的な姿は時代に合わせた変革が必要である。多様性と不確実性に対応する柔軟性と、タクティカル・アーバニズムのような現場に即した動きを阻害せず、受け止め、支えられるプランニングとしていかななくてはならない。そのような認識と方向性の提示もPVのねらいであると言える。

■今、ビジョンを持ち、語ることの意味

今後の都市や社会がどのような姿となるのか、人々の生活や活動がどのようなようになっていくのか。単に成り行きを予測するだけでなく、意思をもって実現すべき姿を描き、都市や地域全体を見渡して目標像を導出すること、つまりビジョンを示すことは、プランニングのもっとも基本的な要素・段階である。多様性と不確実性の時代に、ビジョンを持ち共有することが著しく困難になってきたことは間違いない。しかし前項で述べたように、今日こそプランニングには必要性があり、したがってビジョンを示し語る努力も同様に必要である。そして単にプランニングの一過程としてビジョンが必要というだけではない。



Takuya Hara/Sigma

プランニングの過程にあるか否かを問わず、ビジョンを人々に示すことは、良い意味での火種となって多くの人々の意志と意見を引き出すきっかけとなる。たとえば多様性を取り込んだ都市・まちづくりが今後の時代には欠かせないが、多様性を引き出し、ビジョンの先のプランや実現の取り組みに盛り込むために、まずビジョンを提示する（投げ込む）ことが必要であり有用でもある。また、環境問題など、すぐには目に見えないが重要・重大な危機に対する社会的啓発や、近年言われるようになったWell-Being実現の将来像とその手段を描き、人々が将来に夢と希望をもって取り組める環境をつくるという意味でも、誰かがビジョンを示し語ることは、日頃から行われていなくてはならない。

すなわち、多様化と不確実性の時代だからこそ、ビジョンを持つ努力、語る努力が必要なのである。ただし、語られるビジョンが即座に金科玉条となつてはならず、人々の想いを受けて柔軟に変え、育てていくものであることが前提である。

また、PVでは都市プランナーがビジョンを語るべきとしているが、それはなぜか。本来まずビジョンを示す役割は、都市や地域のリーダー的存在、首長、キーパーソンが想定されるが、そのような立場の人々はプランニングを位置づける人々でもある。逆説的だが、ビジョンを語る人はそもそも広義のプランナーであると言える。もちろん、狭義の都市プランナー（職業都市プランナーや都市計画・まちづくりに携わる公務員など）もビジョンを持ち、語る人であるべきである。



都市プランナーとは、リーダーや地域の人々を実務的だけでなく思想的にも支える立場であり、自分自身でもビジョンを持って人々に示すことが、理想的にも現実的にも重要な仕事である。またリーダーや人々の想いを受け止めて都市やまちのプラン・プロジェクトに落とし込んでいく際に、都市プランナーはある種の翻訳作業を行っていると言えるが、高度で質が高いプランへと翻訳していくためには、自身の哲学やビジョンが介在していることが重要である。

ただし、広義狭義問わずプランナーが語るビジョンは自己満足に終わるものであってはならず、ビジョンを語れるだけの教養、能力、立場と他者からの信頼を養わなくてはならない。また、狭義の都市プランナーは、語るビジョンを実践につなげられる知見とスキルを持っていないといけない。これもPVで訴えていることのひとつである。

■プランニング・マインドの社会的普及

社会の多様化と同調して、都市プランナーが活動・活躍する領域、求められる役割や職能も極めて多様化している。これを一人の都市プランナーが担うのは現実的ではなく、むしろ多様な知見・スキル・立場を持った複数の都市プランナーや関係者が連携してプランニングを行っていく必要がある。PVでも「3. 都市プランナーが果たすべき役割」にてそう示し、プランナーそれぞれの個性をもって他者とコラボレーションし、「チームで実現する」ことの重要性を訴えている。



その前提として、都市プランナーと呼ばれる人々が人材として多様化していなくてはならない。都市プランナーの領域にいる人間からすれば、すでにそのような状況はあちこちに見られると思うだろう。しかし社会全体から見れば、都市プランナー、プランニングとはいまだきわめて狭い世界であり、理解が十分とはまったく言い難い。

大学教員としての私個人の視点で言えば、現在いわゆる文系の学部においてまちづくり教育に携わっているが、都市プランナーを志向する人材を輩出したくとも、実際には難しい。私自身の力不足はさておいても、職業としての都市プランナーは工学系－特に建築や土木領域の高等教育を受けた者が進路の一つとして選ぶものという社会的な認識は根強い。文系の学生にとっては、いくらまちづくりについて学んでも、自分のあるべき進路の一つとして職業都市プランナーが頭に浮かばない。しかし、都市プランナーの入り口をくぐる者が限られたままでは、人材の多様化はなかなか進まない。

ひとつには、職業都市プランナーの人材採用の窓口、チャンネルを広げるといふ具体的努力は必要であろう。各社が決して意図して狭めているわけではないにせよ、情報発信の先を広げるチャレンジは続けざるを得ない。加えて、そもそもが社会的に「プランニング」の必要性と実践が共有されているとはいいがたい状況自体を変える努力も必要ではないか。プランニングの必要性を理解し、公私問わず実践的にプランニング（的な行為）に取り組むことへの理解をプランニング・マインドと呼ぶとすると、都市プランナー自身はすでに都市・まちに対するプランニング・マインドを持っている人々である。



その底上げやレベルアップはもちろん必要だが、それだけでなく新たにプランニング・マインドを得る人を増やし、社会的共有の度合いを少しでも増し、様々な分野の人々が様々なレベルのプランニングに携わる意志と機会を増やしていくこと、ある種の社会的環境整備の努力も必要ではないだろうか。都市プランナーの役割のひとつには、そのような世を作っていく努力を払うこともあると私は考える。PVでの「富士山モデル」は都市プランナーに限った示し方であるが、私としては「裾野を広げる」にプランニングの理解をもっと世に広げていくことという含意もある。もちろん実現はまったく容易ではなく、基本的には「語り続ける」しかない。逆説的だが、都市プランナーはこういった効果も狙ってビジョンを語り続けるべきだろう。

■おわりに

蛇足とも思える事項を書き連ねたが、PVにまとめる過程で感じた様々なプランナーの想いに触発されて考えたことの一部ではあり、改めて人材育成や社会に色々働きかけていくことの必要性と重要性を確認できたことは個人的な成果である。そのうえで、PVが個人の契機のみならず、JSURPや関連する人々・組織の方針・活動づくりに資することを期待したい。

2. 都市プランナーから寄せられた「マイビジョン」

内山 征 (株)アルメック

私がこの職業についてきたころは、都市計画により恒久的な機能する都市を計画することが、都市計画コンサルタントの仕事でした。しかしながら、現在は、多様化し、次々と発生する都市課題へ柔軟に対応するセンスが求められています。また、個の知識や情報では対応しきれない課題に対して、人的資源を駆使して向かっていくネットワークが、プランナーの価値になるかも知らないと思っています。

苅谷 智大 (株)まちづくりまんぼう

ビジョンは不可逆的なものか、一度定めたら軌道修正は可能なものか、そもそもプランナーが語るビジョンとは如何程の解像度のものか、を考えさせられました。おそらくそれも地域によって異なるのでしょうが、いずれにおいてもプランナーには高いコミュニケーション能力が求められるのだと思いました。社会経済情勢の変化が短期間で変わり、またAIの活用が進展して段階的な進捗管理よりも、短期的な最適解を求める時代になりつつあるなかで、どのようにより良い社会へ誘うことができるのかについて、従来の技術論を超えて新しいプランナー像の必要性が高まっているのではないかと。

My Vision 27



石川 岳男 (株) 計量計画研究所

分業制が当たり前になってきていることを前提として、それらを統括して望ましい方向へと導ける人材が必要、というだけでそうした人材が育つわけではない。また、総合性を求めれば求めるほど専門家になることができず、結局自分のコア・コンピタンスが何なのか分からないまま、プランナーという曖昧な立場にならざるを得ないというのが実情なのではという気がする。

例えば、ビジョンの語る、というのはこれからはプランナーでなくAIの役割になる可能性があることを踏まえると、もしビジョンを語る、ことをプランナーの本質として位置づけるのであれば、そのための最低限の資質、知識、経験、資格などをもち、一定の研修などを受けるなど一般社会に評価されるようにならないと、単に自己満足で言っているだけになるのではないか。

例えば合意形成の専門家になるために、アメリカのようにPIプログラムの受講と一定の経験を義務づけるなどを行い、専門家としての地位の確立を図ることも考えられる。合意形成だけで都市プランナーとは言えないことから、例えば同様の手続きで「人々を繋ぐ」専門家となるなど、複数の技術を持った人を真の都市プランナーと呼ぶという考え方もあるかもしれない。

いずれにしても、社会的に認知される「都市プランナー」を目指すのであれば、単に全体像を語れるようになるというだけで都市プランナーであると言うのはおこがましいし、自らに厳しい教育と訓練を行うことを前提にするべきであるように思います。



北本 美江子 都市住生活アトリエ

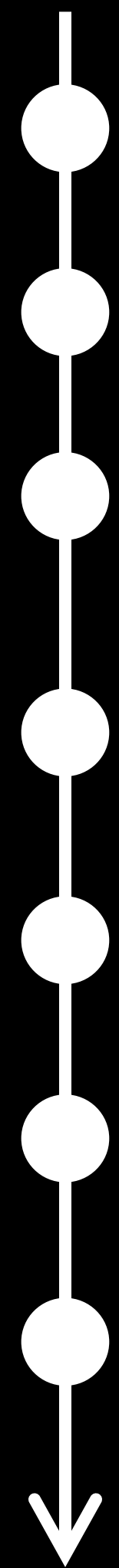
伊藤先生が家協会を設立なさったとき、私は都市問題会議という集まりの事務局を手伝っていて、そこで田村明先生が「日本に都市計画家なんているのかね？」とおっしゃったのを覚えています。あの世代は対抗意識が強くて、相互にそうした批判めいたことを平気で言い合う時代でした。以来、私も「都市計画家とは？」を気にしていますが、フランスのニュータウンを調べていたとき、ドゴールの側近で実質的にパリ周辺の5つのニュータウン建設を主導したポール・デュルブリエという人のことを訳していて、「都市計画家の言うことはチンプンカンプン」という文章に出くわして思わず笑ってしまいました。私もフランスでセーヌ川沿いの調査をしていたときに、自分をユルバニストと言ったら「ホント？」という感じで引かれてしまったことがあります。なので家協会でこうした議論をしていただくことはとても興味深く、良い成果が出るようにと思っています。

私見では、「都市計画家」はウィキペディアで検索すると日本と世界でたくさん出てきますが、これをそれぞれ20人程度に絞り込めば少し分かりやすくなるのではと思います。実践という意味では後藤新平やオスマン男爵を始め、政治家が力を持ちますので、家協会の趣旨とは合わないかもしれませんが、政治家に都市計画を理解してもらうのも大事ではと思います。先日は福岡市職員から議員秘書になって、また市職員に戻った人の話を聞いて、市議会議長から衆議院議員になって市長になった人が、秘書として都市計画を担当していたことを高く評価していたと知り見識を感じました。もちろん都市拡大期の話ではありますが。田村先生の横浜での活躍も飛鳥田市長あつてのことではあると思います。



小林 真幸 (株) KRC

①常に広い視野をもち、さまざまな人の立場にたって、それぞれの想いを大切に考えられるプランナー、②その地域・場所ならではの魅力を読み取り、みんなで共有したくなる目的や方向性（ビジョン）を紡ぎ出せるプランナー、③人と人をつなぎ、10年先、20年先を見据えて、そのビジョン実現に向けた一歩となる施策やアクションに誘い、質の高い暮らしの実感に結び付く活動や取組を陰ながら支えられるプランナー、でありたいなと思う。



2023年2月 会員意見募集

2023年4月～6月 世代別ワークショップ

2023年6月 Planners特集号「これからのプランニング・プランナー像」発行
総会后シンポジウム「現代のプランとプランナー」

2023年10月 全国まちづくり会議 in 東京ちよだ 「プランナー像と職能」セッション

2024年3月 都市計画学会が学会誌で「令和版民間都市プランナー論」発行

2024年9月～10月 「都市プランナービジョン2024」JSURP会員向けパブリックコメント

2024年12月 「都市プランナービジョン2024」公表



Process of Making